

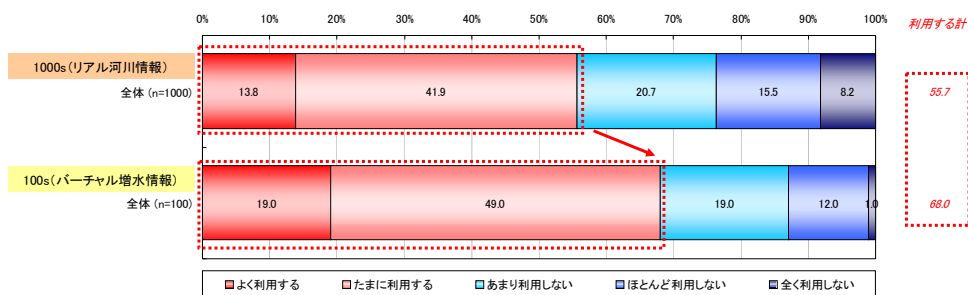
地デジ・データ放送の利用状況比較

- 地デジ・データ放送視聴可能者の日常の地デジ・データ放送利用状況を、1000s(リアル河川情報)調査と100s(バーチャル増水情報)調査と比較すると、前者は利用する人(利用する計)が56%なのに対し、後者は68%。100s調査のアンケート対象者の方が、普段から地デジ・データ放送を利用する(利用する計)人が多い。

Q5. あなたは普段、地デジのデータ放送をどの程度利用していますか。

■ SA ■

Q5. 地デジ・データ放送の利用状況比較



※1000s(リアル河川情報): 実証実験「大和川河川情報」視聴調査(1000サンプル)
 100s(バーチャル増水情報): 特別実験「増水時を想定した仮想データによる河川情報」視聴調査(100サンプル)

※利用する計=「よく利用する」+「たまに利用する」

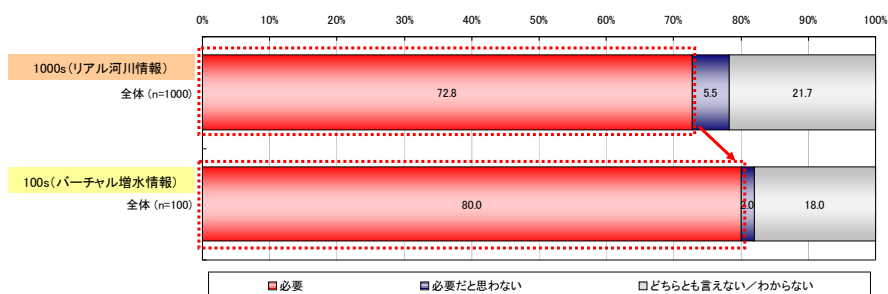
地デジ・データ放送の防災情報必要度比較

- 地デジ・データ放送で防災情報の情報提供は必要かを、1000s(リアル河川情報)調査と100s(バーチャル増水情報)調査と比較すると、前者の「必要」は73%なのに対し、後者は80%。100s調査の方が地デジ・データ放送での防災情報提供が「必要」と思う人が多く、増水時を想定した仮想の映像を視聴した後に回答してもらった点が影響していると考えられる。

Q1. あなたは地デジのデータ放送で、防災情報の情報提供は必要だと思いますか。

■ SA ■

Q1. 地デジ・データ放送での防災情報必要度比較



※1000s(リアル河川情報): 実証実験「大和川河川情報」視聴調査(1000サンプル)
 100s(バーチャル増水情報): 特別実験「増水時を想定した仮想データによる河川情報」視聴調査(100サンプル)

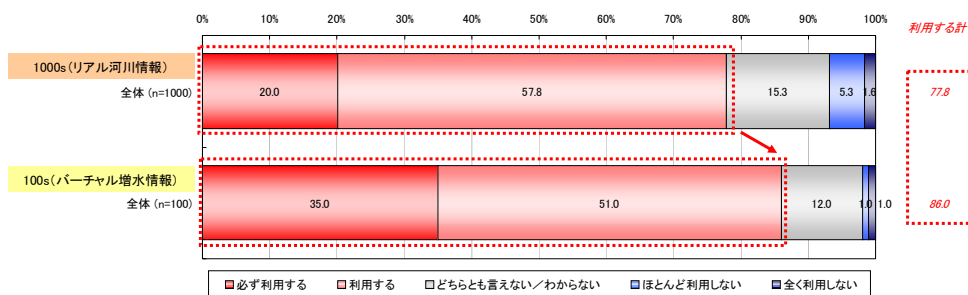
地デジ・データ放送の防災情報利用意向比較

- 地デジ・データ放送で防災情報が提供された場合に利用するかを、1000s(リアル河川情報)調査と100s(バーチャル増水情報)調査で比較すると、前者の利用する(利用する計)と回答した人は78%なのに対し、後者は86%。100s調査の方が地デジ・データ放送での防災情報を利用したいと思う人が多く、必要度と同様に、増水時を想定した仮想の映像を視聴した後に回答してもらった点が影響していると考えられる。

Q2. 地デジのデータ放送で、いつでも防災情報が提供されるようになれば、悪天候時に利用すると思いますか。

■ SA ■

Q2. 地デジ・データ放送での防災情報利用意向比較



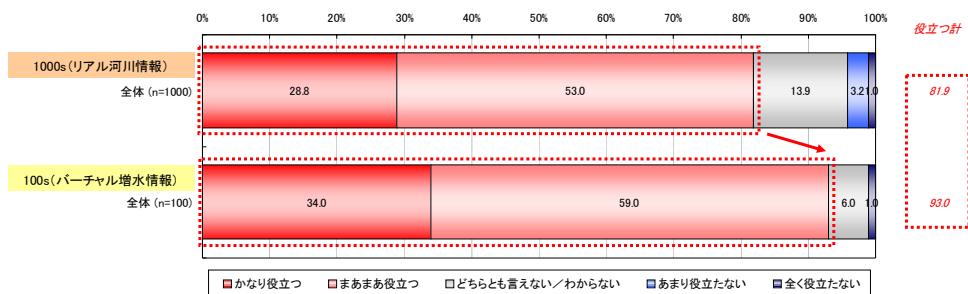
地デジ・データ放送の防災情報有効度比較

- 地デジ・データ放送で防災情報が提供された場合、自主非難の判断などに役立つと思うかを、1000s(リアル河川情報)調査と100s(バーチャル増水情報)調査で比較すると、前者の役立つ(役立つ計)と回答する人は82%なのに対し、後者は93%。どちらも有効度は高いが、100s調査の方が地デジ・データ放送での防災情報を役立つと思う人が多い。必要度、利用意向と同様に、増水時を想定した仮想の映像を視聴した後に回答してもらった点が影響していると考えられる。

Q3. 地デジのデータ放送で、防災情報を提供することは、あなたの自主避難の判断などに役立つと思いますか。

■ SA ■

Q3. 地デジ・データ放送での防災情報有効度比較



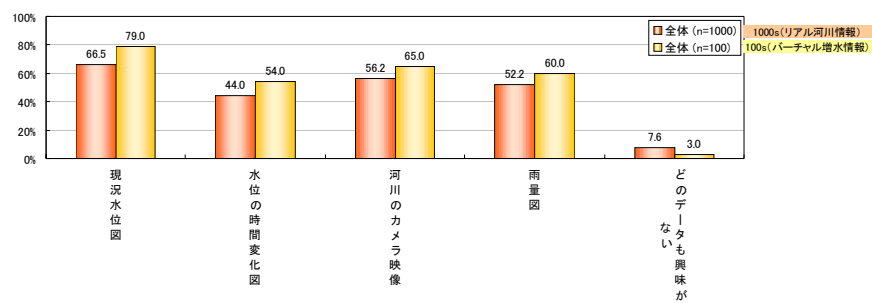
地デジ・データ放送の興味のある防災情報比較

- 地デジ・データ放送で実際に提供されている防災情報の中でどのデータに興味があるかを、1000s(リアル河川情報)調査と100s(バーチャル増水情報)調査と比較すると、100s調査の方が全体的にどの項目も10ポイントほど高い。100s調査の方が全体的にどのデータへも興味を示しており、情報感度の高い人が多いと思われる。

Q4. 実験的に提供されているデータの中では、どのデータに興味がありますか。あなたが興味のあるデータすべてをお答えください。

■ MA ■

Q4. 地デジ・データ放送での興味のある防災情報比較



※左軸、1000s(リアル河川情報): 実証実験「大和川河川情報」視聴調査(1000サンプル)
右軸、100s(バーチャル増水情報): 特別実験「増水時を想定した仮想データによる河川情報」視聴調査(100サンプル)

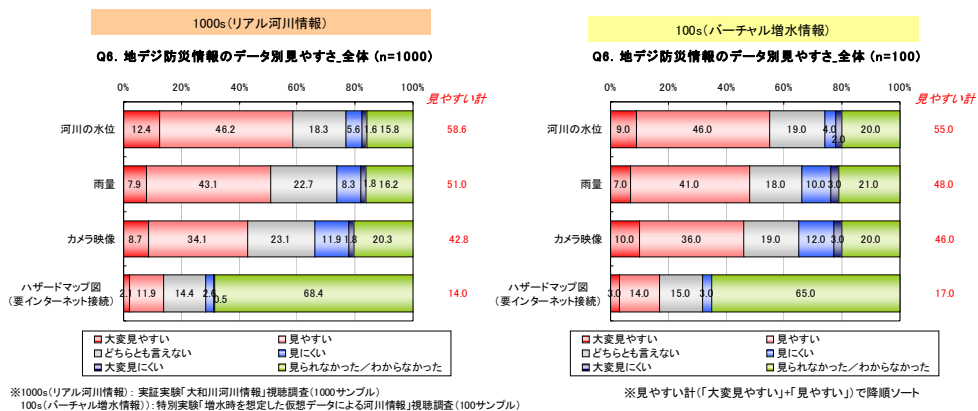
※降順ソート

地デジ防災情報のデータ別見やすさ比較

- 地デジ・データ放送で視聴した各データの「見やすさ」(見やすい計)について、1000s(リアル河川情報)調査と100s(バーチャル増水情報)調査と比較すると、見やすいと感じる項目、そのポイントに関しても、2つの調査に大きな違いはみられない。

Q6. 以下についてあなたのお考えにあてはまる選択肢をお選びください。

■ SA ■



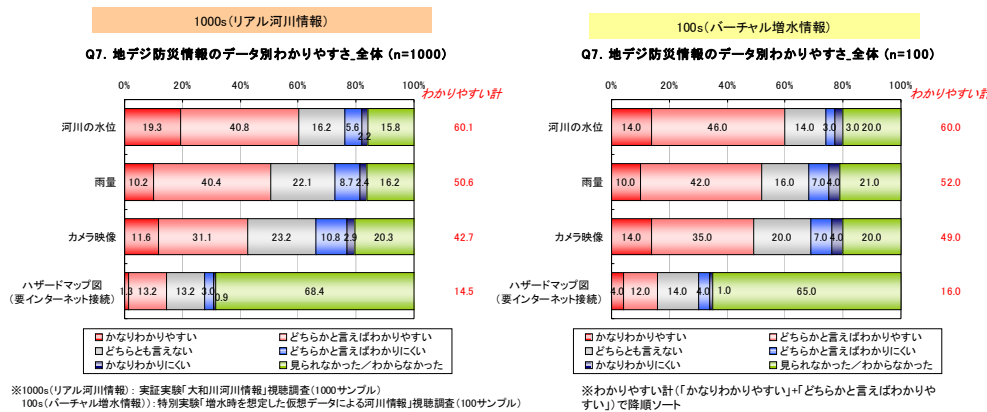
※1000s(リアル河川情報): 実証実験「大和川河川情報」視聴調査(1000サンプル)
100s(バーチャル増水情報): 特別実験「増水時を想定した仮想データによる河川情報」視聴調査(100サンプル)

地デジ防災情報のデータ別わかりやすさ比較

- 地デジ・データ放送で視聴した各データの“わかりやすさ”（わかりやすさ計）について、1000s（リアル河川情報）調査と100s（バーチャル増水情報）調査と比較すると、“見やすさ”同様、わかりやすいと感じる項目、そのポイントに関しても、2つの調査に大きな違いはみられない。

Q7. 地デジ防災情報で視聴した各データがどの程度わかりやすかったかを聞きます。

■ SA ■

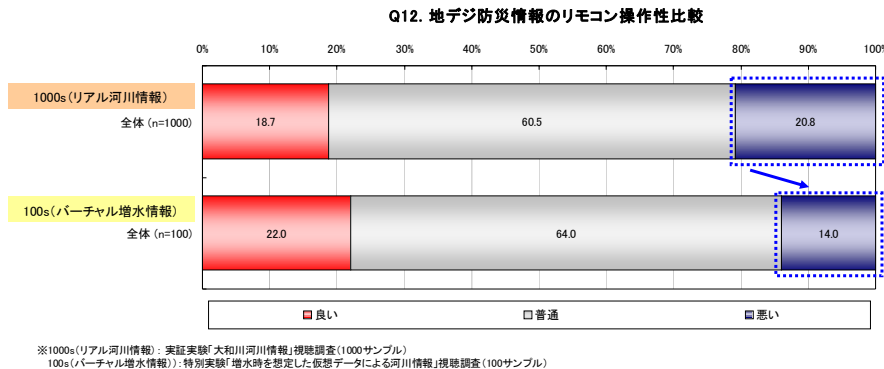


地デジ防災情報のリモコン操作性比較

- 地デジ・データ放送で防災情報のリモコンの操作性（使い勝手）について、1000s（リアル河川情報）調査と100s（バーチャル増水情報）調査と比較すると、前者の「悪い」が21%なのに対し、後者は14%。1000s調査の方が、地デジ防災情報のリモコンの使い勝手が悪いと感じている人が多い。
- 2つの調査のアンケート対象者の性・年代を比較すると、1000s調査は100s調査に比べて男女共に圧倒的に60代以上が多く、100s調査は30代、40代多い。この点が、操作性の良し悪しの評価に影響していると思われる。

Q12. 今回視聴していただいた地デジの防災情報のリモコンの操作性（使い勝手）はどう思いますか。

■ SA ■



地デジ防災情報のリモコン操作性「悪い」の評価理由比較

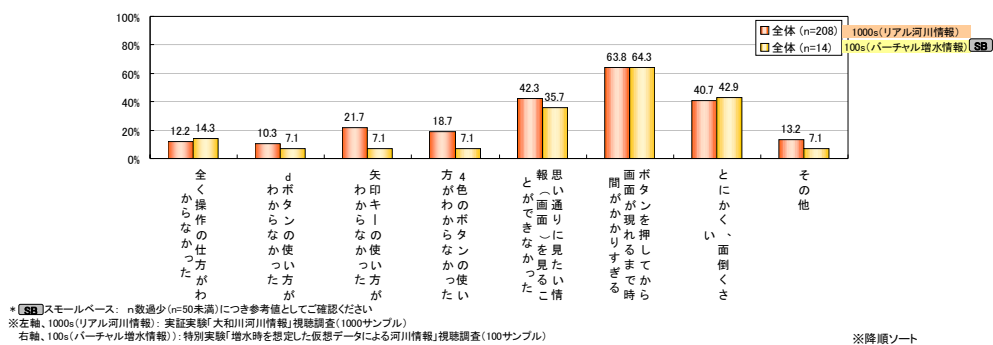
- サンプル数過少につき参考値。

Q13. あなたはどのような点が「悪い」と感じられましたか。あなたが「悪い」と感じた点すべてをお答えください。

■ MA ■

Q12リモコン操作性「悪い」回答者ベース

Q13. 地デジ防災情報のリモコン操作性「悪い」の評価理由比較



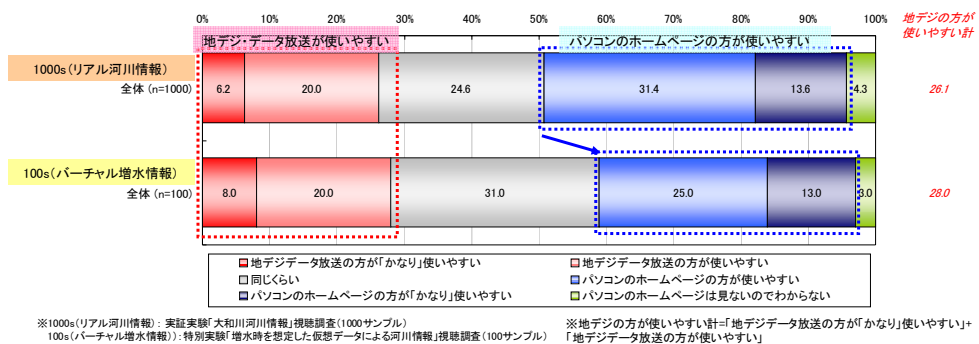
地デジ・データ放送とPCとの操作性評価の比較

- 地デジ・データ放送で防災情報のリモコンの操作性(使い勝手)について、1000s(リアル河川情報)調査と100s(バーチャル増水情報)調査と比較すると、両者の地デジ・データ放送の方が使いやすい(地デジの方が使いやすい計)と回答した人は、ほぼ変わらない。ただ、パソコンのホームページの方が使いやすい(パソコンのホームページの方が使いやすい+パソコンのホームページの方が「かなり」使いやすい)と回答した人を比較すると、前者が45%に対し、後者が38%と低い。
- 1000s調査に比べて100s調査の方が、普段から地デジ・データ放送を利用している人が多く(P.95参照)、その点が影響していると思われる。

Q14. パソコンのホームページからの情報入手と比べて、地デジの操作性(使い勝手)はどう感じましたか。

■ SA ■

Q14. 地デジ防災情報とPCとの操作性比較



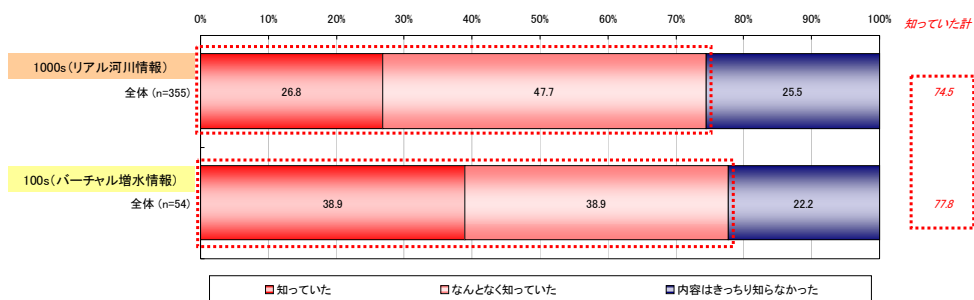
地デジ防災情報のCM内容認知度比較

- 地デジ防災情報データ放送のコマーシャルを見たことがある（見た計）人に、そのCMが「地デジデータ放送の実験放送で、架空で河川のはん濫情報を流します。」という内容を告知していたことを知っていたかを、1000s（リアル河川情報）調査と100s（バーチャル増水情報）調査と比較すると、前者は知っていた（知っていた計）が75%に対し、後者は78%。両者による大きな違いはなく、2つの調査共に内容認知度は非常に高い。

Q16. そのコマーシャルは「地デジデータ放送の実験放送で、架空で河川のはん濫情報を流します。」という内容を告知していましたが、そういう内容のコマーシャルだったことは知っていましたか。 ■ SA ■

Q15「見たことがない」以外回答者ベース

Q16. 地デジ防災情報のCM内容認知度比較



※1000s（リアル河川情報）：実証実験「大和川河川情報」視聴調査（1000サンプル）
100s（バーチャル増水情報）：特別実験「増水時を想定した仮想データによる河川情報」視聴調査（100サンプル）

※知っていた計＝「知っていた」＋「なんとなく知っていた」

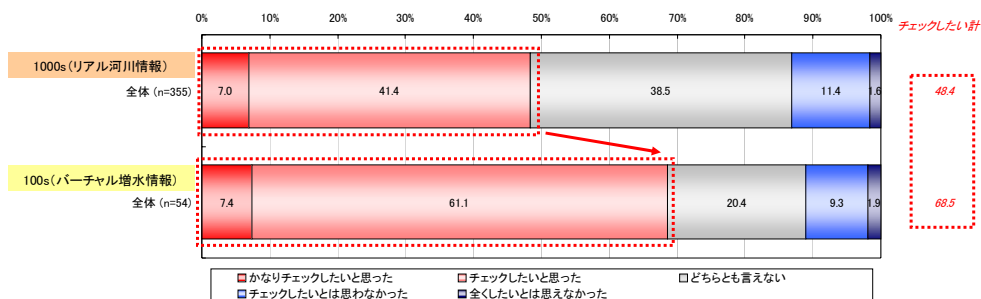
地デジ防災情報のCM視聴によるチェック意向比較

- 地デジ防災情報データ放送のコマーシャルを見たことがある（見た計）人に、コマーシャルを見たことで防災情報データ放送をチェックしてみたいと思ったかを、1000s（リアル河川情報）調査と100s（バーチャル増水情報）調査と比較すると、前者のチェックしてみたい（チェックした計）と回答した人は48%、後者は69%。100s調査の方が、CMを見て地デジ防災情報をチェックしたいという人が圧倒的に多い。
- 100s調査は、情報番組である「情報ライブ ミヤネ屋」内の「防災情報地デジ・データ放送」を視聴してもらいアンケートに回答してもらった調査のため、情報感度の高い人が多い可能性が考えられる。

Q17. あなたは沢口靖子の出ている地デジ防災情報データ放送のコマーシャルを見たことで、防災情報データ放送をチェックしてみたいと思いましたか。 ■ SA ■

Q15「見たことがない」以外回答者ベース

Q17. 地デジ防災情報のCM視聴によるチェック意向比較



※1000s（リアル河川情報）：実証実験「大和川河川情報」視聴調査（1000サンプル）
100s（バーチャル増水情報）：特別実験「増水時を想定した仮想データによる河川情報」視聴調査（100サンプル）

※チェックしたい計＝「かなりチェックしたいと思った」＋「チェックしたいと思った」

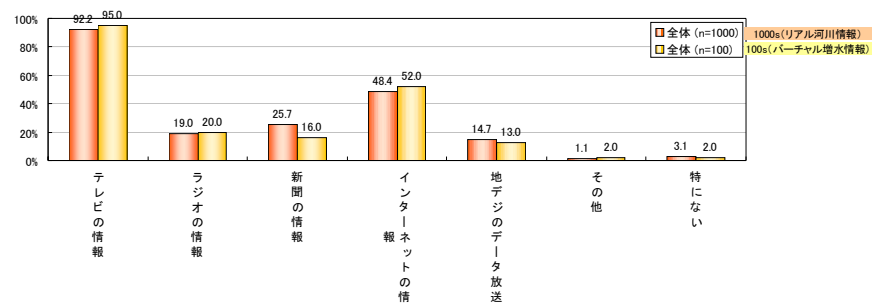
防災情報最頻入手経路比較

- 普段、防災情報を何から得ることが多いかを、1000s(リアル河川情報)調査と100s(バーチャル増水情報)調査で比較すると、「テレビの情報」、「インターネットの情報」など情報を入手することが多い項目やそのポイントも、両者ほぼ同様。情報を入手するツールに関しては、2つの調査による大きな違いはみられない。

Q19. あなたは普段、台風や洪水などの防災情報を、何から得ることが多いですか。あなたがよく参考にする情報源すべてをお答えください。

■ MA ■

Q19. 防災情報最頻入手経路比較



※左軸、1000s(リアル河川情報): 実証実験「大和川河川情報」視聴調査(1000サンプル)
右軸、100s(バーチャル増水情報): 特別実験「増水時を想定した仮想データによる河川情報」視聴調査(100サンプル)

※降順ソート

記述式の回答については付録として添付する。

調査会社により募集したモニター（サンプル数５０）に、洪水時を想定した仮想データによる放送を３月２０日１４：５０から視聴してもらい、アンケートに答えてもらった。サンプル数５０が要求条件であったが、１００サンプル取得できたので、本アンケートは１００サンプルの結果である。

まず、本調査の調査画面イメージを載せる

- 423 -

↓下記の内容に当てはまらない方はこちらをクリックして決めに進めください

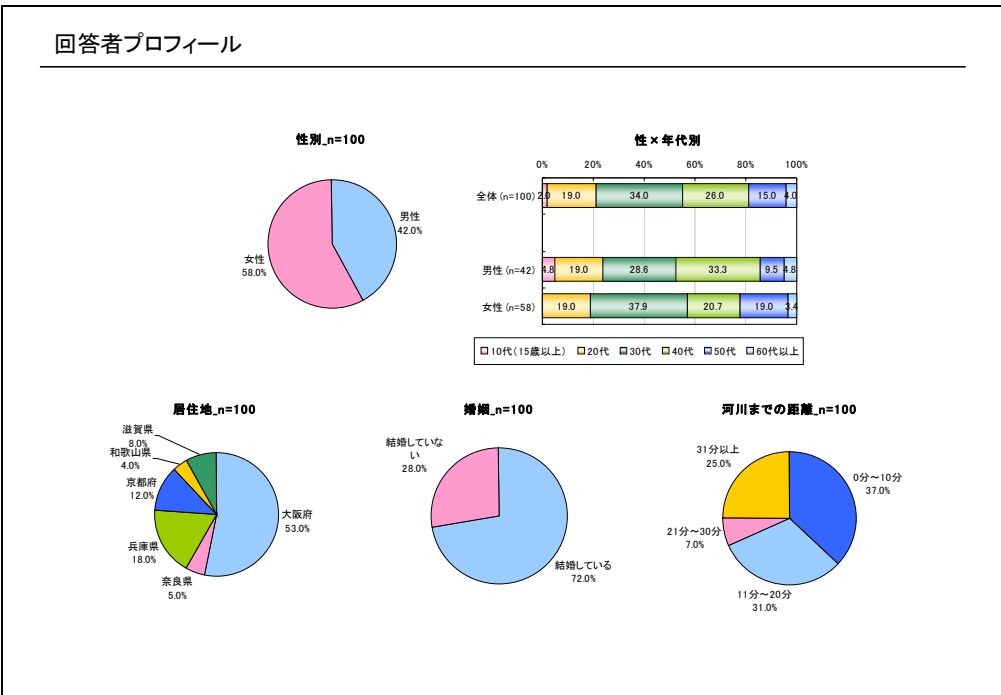
● 地デジ防災情報を視聴するためのリモコンの操作性(使い勝手)についてお聞きします。

【026】あなたは河口端子に出ている地デジ放送情報データ放送のコーションを見たことで、放送情報データ放送をチェックしてみ

【001 読解】 品詞問題

- 425 -

調査結果は、以下のようである。



サマリー2. 地デジ・データ放送での防災情報の評価

地デジ・データ放送での防災情報の見やすさ、分かりやすさや、リモコン操作性に対する現状評価は厳しく、改良の余地が残る。
インターネット接続が必要な「ハザードマップ図」「最大浸水深図」「はん濫シミュレーション図」は、「見られなかった/分からなかった」人が6割を超える。

	調査項目	調査結果
1	地デジ防災情報のデータ見やすさ(Q6)	河川の水位 →55% (見やすい計) 雨量 →48% (見やすい計) カメラ映像 →46% (見やすい計) ハザードマップ図(要インターネット接続) →17% (見やすい計) 最大浸水深図(要インターネット接続) →18% (見やすい計) はん濫シミュレーション図(要インターネット接続) →16% (見やすい計) 避難勧告/指示 →46% (見やすい計)
2	地デジ防災情報のデータわかりやすさ(Q7)	河川の水位 →60% (わかりやすい計) 雨量 →52% (わかりやすい計) カメラ映像 →49% (わかりやすい計) ハザードマップ図(要インターネット接続) →16% (わかりやすい計) 最大浸水深図(要インターネット接続) →19% (わかりやすい計) はん濫シミュレーション図(要インターネット接続) →19% (わかりやすい計) 避難勧告/指示 →46% (わかりやすい計)
3	地デジ防災情報のリモコン操作性(Q15)	良い →22% 普通 →64% 悪い →14%
4	地デジ・データ放送とPCとの操作性比較(Q17)	地デジ・データ放送の方が使いやすい計 →28% 地デジ・データ放送の方が「かなり」使いやすい →8% 地デジ・データ放送の方が使いやすい →20% 同じくらい →31% パソコンのホームページの方が使いやすい →25% パソコンのホームページの方が「かなり」使いやすい →13% パソコンのホームページは見ないのでわからない →3%

サマリー3. 地デジ・データ放送のCM評価

沢口靖子が出演する地デジ防災情報データ放送のCMの認知率・内容理解率は高い。
CMを見たことで防災情報データ放送をチェックしてみたいと思った人も7割近くに達しており、所期の目的を達成していると考えられる。

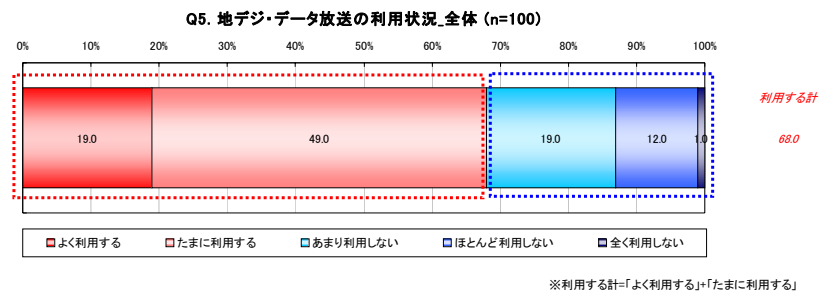
	調査項目	調査結果
1	地デジ防災情報のCM認知率(Q18)	CM認知率計 →54% よく見た →9% 時々見た →16% 見たことがある →29% 見たことがない →46%
2	地デジ防災情報のCM内容理解度(Q19)	CM内容理解率計 →78% 知っていた →39% なんとなく知っていた →39% 内容はきっちり知らなかった →22% ※数値はCM認知者ベース
3	地デジ防災情報のCM視聴によるチェック意向(Q20)	チェック意向計 →80% かなりチェックしたいと思った →7% チェックしたいと思った →61% どちらとも言えない →20% チェックしたいとは思わなかった →9% 全くしたいとは思えなかった →2% ※数値はCM認知者ベース

地デジ・データ放送の利用状況

- 地上デジタルのデータ放送視聴可能者に、日常における地デジ・データ放送の利用状況について聞いたところ、68%が利用する（利用する計）と回答した。一方で利用しない（あまり利用しない＋ほとんど利用しない＋全く利用しない）と答えた人は32%。
- 今回の主なアンケート対象者は、日常的に地デジのデータ放送をみている人だといえる。

Q5. あなたは普段、地デジのデータ放送をどの程度利用していますか。

■ SA ■

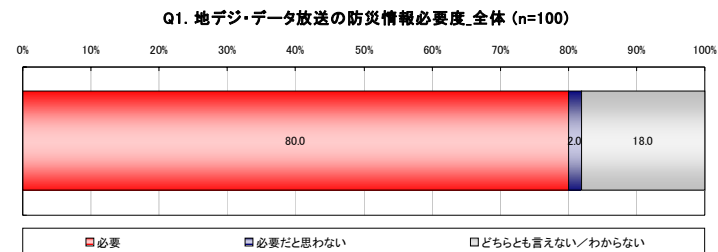


地デジ・データ放送の防災情報必要度

- 地デジ・データ放送で防災情報の情報提供は必要かを聞いたところ、80%が「必要」と回答。一方で「必要だと思わない」と回答した人はわずか2%に留まり、必要度は非常に高い。増水時を想定した仮想の映像を視聴した後に回答してもらった点が影響している可能性も考えられる。

Q1. あなたは地デジのデータ放送で、防災情報の情報提供は必要だと思いますか。

■ SA ■

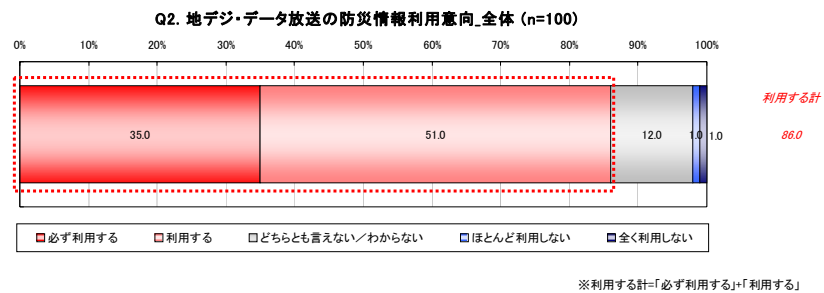


地デジ・データ放送の防災情報利用意向

- 地デジ・データ放送で防災情報が提供された場合、利用するかを聞いたところ、86%が利用する(利用する計)と回答。一方で、利用しない(ほとんど利用しない+全く利用しない)と回答した人はわずか2%に留まる。必要度と同様に利用意向は非常に高い。こちらも、増水時を想定した仮想の映像を視聴した後に回答してもらった点が影響していると考えられる。

Q2. 地デジのデータ放送で、いつでも防災情報が提供されるようになれば、悪天候時に利用すると思いますか。

■ SA ■

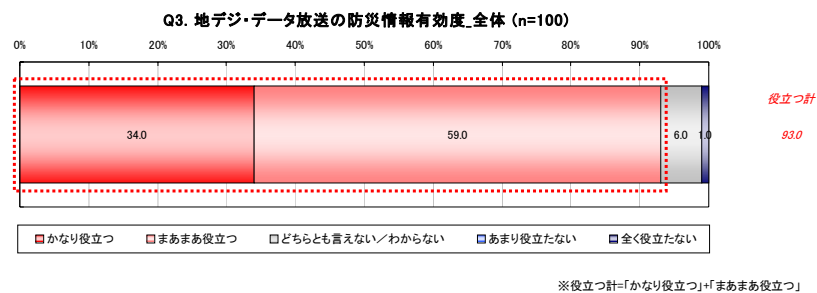


地デジ・データ放送の防災情報有効度

- 地デジ・データ放送で防災情報が提供された場合、自主避難の判断などに役立つと思うかを聞いたところ、93%が役立つ(役立つ計)と回答。一方で、役立つ(あまり役立つ+全く役立つ)と回答した人はわずか1%に留まる。必要度、利用意向と同様に、有効度のポイントも非常に高い結果となった。またこちらも、増水時を想定した仮想の映像を視聴した後に回答してもらった点が影響していると考えられる。

Q3. 地デジのデータ放送で、防災情報を提供することは、あなたの自主避難の判断などに役立つと思いますか。

■ SA ■



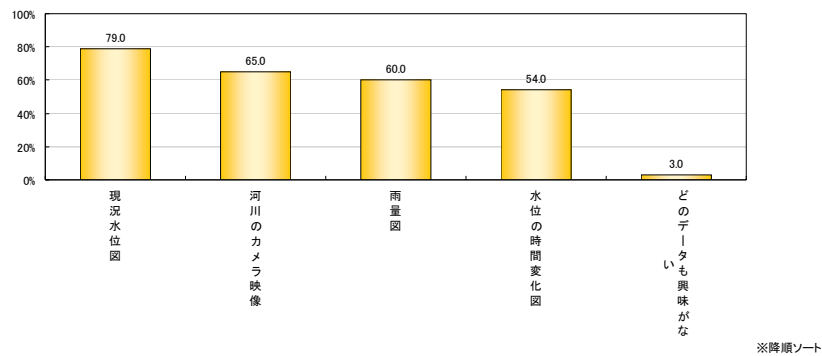
地デジ・データ放送の興味のある防災情報

- 地デジ・データ放送で実際に提供されている防災情報の中で、どのデータに興味があるかを聞いたところ、「どのデータも興味がない」と回答した人は3%に留まり、全体的にどのデータもポイントは高い。
- 中でも、最も興味の高いデータは「現況水位図」が79%、次いで「河川のカメラ映像」が65%と続く。

Q4. 実験的に提供されているデータの中では、どのデータに興味がありますか。あなたが興味のあるデータすべてをお答えください。

■ MA ■

Q4. 地デジ・データ放送の興味のある防災情報_全体 (n=100)



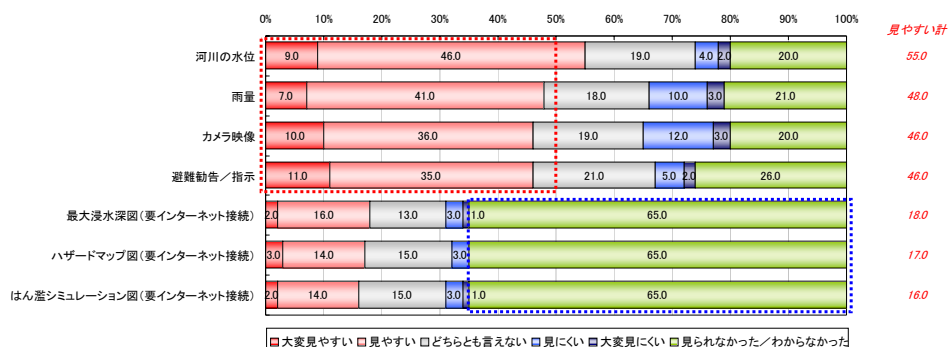
地デジ防災情報のデータ別見やすさ

- 地デジ・データ放送で視聴した各データの「見やすさ」について聞いたところ、「河川の水位」について見やすい(見やすい計)と回答した人は55%、「雨量」は48%、「カメラ映像」は46%、「避難勧告/指示」は46%と、やや厳しい評価となった。必要度、利用意向、有効度が9割前後と高いポイントを示した点から考えると、まだまだ改良の余地が残されている。
- また、インターネット接続が必要な「最大浸水深図」「ハザードマップ」「はん濫シミュレーション図」に関しては、「見られなかった/わからなかった」人が各データとも65%を占める。

Q6. 以下についてあなたのお考えにあてはまる選択肢をお選びください。

■ SA ■

Q6. 地デジ防災情報のデータ別見やすさ_全体 (n=100)



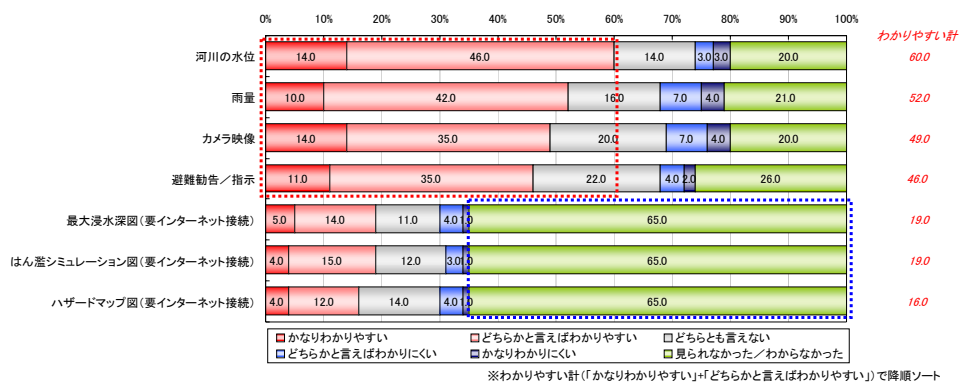
地デジ防災情報のデータ別わかりやすさ

- 地デジ・データ放送で視聴した各データの「わかりやすさ」について聞いたところ、「河川の水位」についてわかりやすい(わかりやすい計)と回答した人は60%、「雨量」は52%、「カメラ映像」は49%、「避難勧告/指示」は46%と、こちらも「見やすさ」同様「やや厳しい」評価となった。データの表現方法に関しては、まだまだ改良の余地がありそうだ。
- また、インターネット接続が必要な「最大浸水深図」「はん濫シミュレーション図」「ハザードマップ」に関しては、「見られなかった/わからなかった」人は、各データとも65%を占める。

Q7. 地デジ防災情報で視聴した各データがどの程度わかりやすかったかを聞きます。

■ SA ■

Q7. 地デジ防災情報のデータ別わかりやすさ_全体 (n=100)



地デジ防災情報の「河川の水位」評価理由

- 地デジ・データ放送で視聴した「河川の水位」についての評価理由を聞いたところ、わかりやすい(かなりわかりやすい+どちらかと言えばわかりやすい)と回答した人は、「図や絵で表現されているため、ぱっと見て理解できる」点を評価している人が多い。
- わかりにくい(かなりわかりにくい+どちらかと言えばわかりにくい)と回答した人の中には、「文字が小さく見にくい、見方がわからない」といった声が上げられた。

Q8. Q7(1)「河川の水位」のわかりやすさについてお答えになった理由をどんな事でも結構ですのでご記入ください。

■ FA ■

「河川の水位」について、Q6、Q7ともに「見られなかった/わからなかった」以外回答者ベース

Q7選択内容	回答内容
かなりわかりやすい	男性20代 各地点ごとに断面図で雨の水位がわかるので見やすいしレッドラインを確認しやすいです。
女性40代	簡単でどんな人でもわかりやすそうだったから。
どちらかと言えばわかりやすい	女性30代 数字よりも絵で見せられたほうが分かりやすいから
女性30代	危険水位や注意水位を細かい単位で示されており、なおかつ水量が水色なのでわかりやすいと思った。
どちらとも言いえない	男性30代 どれくらい危険か危機感が伝わりにくい
女性40代	よくわからない
どちらかと言えばわかりにくい	女性40代 地図に見えた。断面図だと書いてあるものの見方が分かりにくい。
女性40代	何となく見にくい気がした。
かなりわかりにくい	男性20代 42型のテレビで見たが、それでも文字が小さく見にくかった
男性40代	通常水位と危険水位等の線が接近しすぎて解り難い

地デジ防災情報の「雨量」評価理由

- 地デジ・データ放送で視聴した「雨量」についての評価理由を聞いたところ、わかりやすい(かなりわかりやすい+どちらかと言えばわかりやすい)と回答した人の中には、“リアルタイムの雨量やこれから降る雨量などが時系列にグラフで表示され、一目瞭然”といった声が多くあげられた。
- わかりにくい(かなりわかりにくい+どちらかと言えばわかりにくい)と回答した人の中には、“その雨量のデータをみて何を判断すべきか、データの使い方がわからない”といった声もあった。

Q9. Q7(2)「雨量」のわかりやすさについてお答えになった理由をどんな事でも結構ですのでご記入ください。

■ FA ■

「雨量」について、
Q6、Q7ともに「見られなかった／わからなかった」以外回答者ベース

Q7選択内容		回答内容
かなりわかりやすい	男性20代	グラフで時間ごとに雨量を見られるのでこれから降る雨の量の目安にもなってわかりやすいです。
	女性30代	危険度を認識できそうである。
どちらかと言えばわかりやすい	男性60代	時間ごとの雨量変化はわかるが、普段の雨を数値で認識していないので、どの程度の降りがたかかわからない。
	女性30代	天気予報でもリアルタイムに雨量を示してくれることがなかなかないから
どちらとも言えない	女性20代	特にわかりやすいともわかりにくいとも思わなかったので
	女性30代	量を表すには、棒グラフが一番わかりやすいと思う。私的に言えば棒グラフの色も水色だともっといいと思う。
どちらかと言えばわかりにくい	男性10代	グラフによってどの程度の雨量であるかはわかるが、その雨量がどの程度の多さであるかがよくわからない。
	男性50代	累加雨量をみて何を判断すべきなのか分からない。(地面の緩みや地崩れの危険度を判断するのか)
かなりわかりにくい	男性20代	これまでの雨量の推移などのデーターは必要がないと思う
	女性20代	文字が細かくて見にくいし、何のグラフかよくわからなかった。右下の地点に画面に、棒グラフで現在の雨量があらわすほうがばっと見て瞬間的にわかりやすいと思う。

地デジ防災情報の「カメラ映像」評価理由

- 地デジ・データ放送で視聴した「カメラ映像」についての評価理由を聞いたところ、わかりやすい(かなりわかりやすい+どちらかと言えばわかりやすい)と回答した人の中には、“リアルタイムの河川の状況がわざわざ河まで見に行かなくてもわかる点が良い、想像よりも画像が綺麗”といった声が目立った。
- 一方で、わかりにくい(かなりわかりにくい+どちらかと言えばわかりにくい)と回答した人の理由としては、より見やすさを求める声が多い。

Q10. Q7(3)「カメラ映像」のわかりやすさについてお答えになった理由をどんな事でも結構ですのでご記入ください。

■ FA ■

「カメラ映像」について、
Q6、Q7ともに「見られなかった／わからなかった」以外回答者ベース

Q7選択内容		回答内容
かなりわかりやすい	男性40代	周りの景色と一緒に河川の状況が映っていたので、わかりやすかったと思います。強いて言うなら、もう少し観測地点が増えると嬉しいですね。
	女性30代	川がよく見えるから。一目瞭然でよい。
どちらかと言えばわかりやすい	男性10代	実際に河川の近くに行かなくても、河川の状況を見ることができ、写真も鮮明であったから。
	女性40代	水位を実際の映像で見るほうが切迫した状態がよくわかった。
どちらとも言えない	男性60代	増水しているのはわかるが、危険かどうかはわからない。
	女性20代	もっと画像がきれいだいたいと思うから
どちらかと言えばわかりにくい	男性40代	川(水)と岸の境目が判断しにくい
	女性30代	定点で画像が暗く、知らない場所だったのでピンと来なかった
かなりわかりにくい	男性20代	夜間や、激しい雨の時はほとんど見えなくなってしまうから
	女性50代	川の増水がどれだけのものなのか映像ではわからない。

地デジ防災情報の「ハザードマップ図」評価理由

- 地デジ・データ放送で視聴した「ハザードマップ図」についての評価理由を聞いたところ、わかりやすい(かなりわかりやすい+どちらかとも言え(ばかりやすい))と回答した人の中には、“地図が明解で見やすい、わかりやすい”といった声が上げられた。
- ただ一方で、わかりにくい(かなりわかりにくい+どちらかとも言え(ばかりにくい))と回答した人の中には、“よくわからない、理解しにくい”という答えもあげられた。

Q11. Q7(4)「ハザードマップ図(要インターネット接続)」のわかりやすさについてお答えになった理由をどんな事でも結構ですでご記入ください。

■FA■

「ハザードマップ図(要インターネット接続)」について、
Q6、Q7ともに「見られなかった／わからなかった」以外回答者ベース

Q7選択内容		回答内容
かなりわかりやすい	女性30代	見やすかった
	女性40代	わかりやすい
どちらかと言えばわかりやすい	男性40代	いろがついていてよかった
	女性30代	地図が明確でわかりやすかった
どちらとも言えない	男性20代	知識が無くても理解できた。
	男性30代	もう少し細かいエリアの設定をしてほしい
どちらかと言えばわかりにくい	女性30代	面白くなかった、理解しなかった
	男性30代	ない
かなりわかりにくい	女性50代	早すぎてわかりにくい。

地デジ防災情報の「最大浸水深図」評価理由

- 地デジ・データ放送で視聴した「最大浸水深図」についての評価理由を聞いたところ、わかりやすい(かなりわかりやすい+どちらかとも言え(ばかりやすい))と回答した人は、グラフや絵になっているためひと目で理解できるといった声が多い。
- ただ一方で、わかりにくい(かなりわかりにくい+どちらかとも言え(ばかりにくい))と回答した人の中には、難しく、理解しにくいという答えも目立った。

Q12. Q7(5)「最大浸水深図(要インターネット接続)」のわかりやすさについてお答えになった理由をどんな事でも結構ですでご記入ください。

■FA■

「最大浸水深図(要インターネット接続)」について、
Q6、Q7ともに「見られなかった／わからなかった」以外回答者ベース

Q7選択内容		回答内容
かなりわかりやすい	男性40代	グラフ化されていてよくわかった
	女性30代	見てすぐわかる
どちらかと言えばわかりやすい	男性30代	どれぐらい危険か危機感が伝わりにくい
	女性30代	絵で見てパッと分かる
どちらとも言えない	男性20代	すぐに理解できた。
	男性30代	みやすかった
どちらかと言えばわかりにくい	男性50代	ややみにくい
	女性40代	むずかしい
かなりわかりにくい	女性50代	同一画面に一度に表示されると内容がわからない

地デジ防災情報の「はん濫シミュレーション図」評価理由

- 地デジ・データ放送で視聴した「はん濫シミュレーション図」についての評価理由を聞いたところ、わかりやすい(かなりわかりやすい+どちらかと言えばわかりやすい)と回答した人の中には、“シミュレーションとはいえ、現実的で参考になった”といった声が上がられた。
- わかりにくい(かなりわかりにくい+どちらかと言えばわかりにくい)と回答した人の中には、“ややみにくい、わかりにくいといった”声もあげられた。

Q13. Q7(6)「はん濫シミュレーション図(要インターネット接続)」のわかりやすさについてお答えになった理由をどんな事でも結構ですでご記入ください。

■FA■

「はん濫シミュレーション図(要インターネット接続)」について、Q6、Q7ともに「見られなかった／わからなかった」以外回答者ベース

Q7選択内容		回答内容
かなりわかりやすい	女性30代	シミュレーションでも怖さが伝わった
	女性40代	見やすかった。
どちらかと言えばわかりやすい	男性30代	現実的で参考になった
	男性40代	接続にじかんだかかった
どちらとも言えない	男性30代	データが分かりやすかった
	男性40代	図の説明がわかりやすい
どちらかと言えばわかりにくい	男性50代	ややみにくい
	女性20代	特になし
かなりわかりにくい	女性50代	どんな状況かアナウンスを同時にしてほしいし何を説明しているのか図の表示にしるしを出してほしい。

地デジ防災情報の「避難勧告/指示」評価理由

- 地デジ・データ放送で視聴した「避難勧告/指示」についての評価理由を聞いたところ、わかりやすい(かなりわかりやすい+どちらかと言えばわかりやすい)と回答した人の中には、“赤で表示されたり、色分けされていてわかりやすい”という声が目立った。
- ただ、わかりにくい(かなりわかりにくい+どちらかと言えばわかりにくい)と回答した人の中には、“とても重要な情報のため、もっと字を大きくしたり画面自体を目立たせる”など、より通常画面との違いを求める声が多くあげられた。

Q14. Q7(7)「避難勧告/指示」のわかりやすさについてお答えになった理由をどんな事でも結構ですでご記入ください。

■FA■

「避難勧告/指示」について、Q6、Q7ともに「見られなかった／わからなかった」以外回答者ベース

Q7選択内容		回答内容
かなりわかりやすい	男性20代	色わけがされていて重要度が伝わってきた。的確で分かりやすい
	女性40代	赤でしかも字の部分が回転するので、自然と目がそちらに向いた。意識しなくても目に入ってくる。
どちらかと言えばわかりやすい	男性40代	勧告と指示の違いが説明されたこと発令された時間が明らかなこと
	女性30代	避難指示ではいきなり赤色になるので目をひくが、勧告では文字が小さいので年配の方などにはわかりにくいと思う。
どちらとも言えない	男性30代	避難指示は赤文字、避難勧告は黄色とかにした方がよいと思う
	女性30代	とても重要な内容なので、もっと大きく書いて欲しい
どちらかと言えばわかりにくい	男性20代	どこに掲載されているのかぱっとみわかりづらかったまた、対象エリアが広がった際にはさらに見にくくなるのではないかと思った
	女性50代	状況説明のアナウンスを同時にしてほしい
かなりわかりにくい	男性20代	わざわざ詳細を確認するのが面倒、一番重要な情報のだからトップに一覧でもっと大きく表示すべき
	男性40代	画面の色が赤に変わるとか、通常画面との違いをハッキリとさせるべきではないでしょうか？

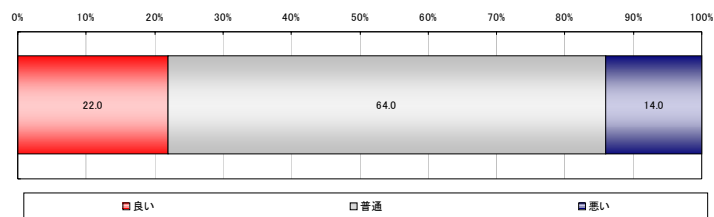
地デジ防災情報のリモコン操作性

- 地デジ・データ放送で防災情報のリモコンの操作性(使い勝手)について聞いたところ、「良い」と回答した人は22%と低く、「普通」と回答した人が64%と最も高く、「悪い」と回答した人は14%。リモコンの使い勝手は良くも悪くもないといった評価が大半を占めたが、防災情報を流すことを考えると、今後も改良の必要がありそう。

Q15. 今回視聴していただいた地デジの防災情報のリモコンの操作性(使い勝手)はどう思いますか。

■ SA ■

Q15. 地デジ防災情報のリモコン操作性_全体 (n=100)



地デジ防災情報のリモコン操作性「悪い」の評価理由

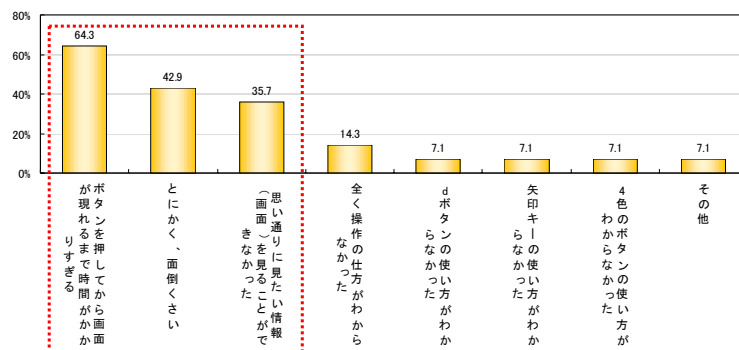
- 地デジデータ放送で防災情報のリモコンの操作性(使い勝手)が「悪い」と回答した人に、具体的にどの点が悪いかと聞いたところ、「ボタンを押してから画面が現れるまで時間がかかりすぎる」が64%と最も高い。次いで「とにかく、面倒くさい」が43%、「思い通りに見たい情報(画面)を見ることができなかった」が36%と続く。
- 上位の項目をみると、操作の仕方がわからないというよりは、操作が簡単にできない、スムーズに操作が進まない、などの部分にストレスを感じたようだ。

Q16. あなたはどのような点が「悪い」と感じられましたか。あなたが「悪い」と感じた点すべてをお答えください。

■ MA ■

Q15リモコン操作性「悪い」回答者ベース

Q16. 地デジ防災情報のリモコン操作性「悪い」の評価理由_全体 (n=14)



※降順ソート

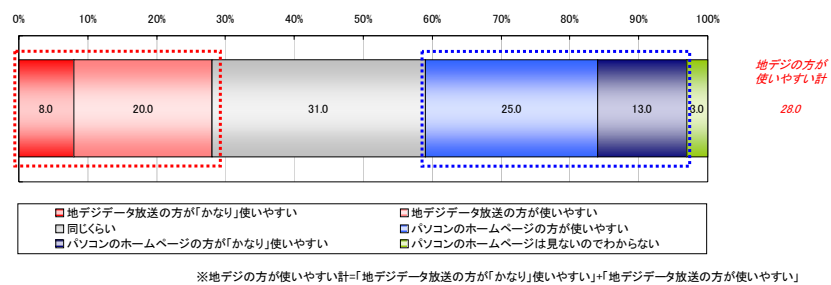
地デジデータ放送とPCとの操作性比較

- 情報入手をする際に“地デジのデータ放送”と“PCのホームページ”のどちらが使い勝手が良いかを聞いたところ、地デジの方が使いやすい(地デジの方が使いやすい計)と回答した人は28%。それに対してパソコンのホームページの方が使いやすい(パソコンのホームページの方が使いやすい+パソコンのホームページの方が「かなり」使いやすい)と回答した人は38%。普段から使い慣れているという点が影響しているのか、地デジよりもPCの方が使い勝手がよいと感じている人がやや多い。

Q17. パソコンのホームページからの情報入手と比べて、地デジの操作性(使い勝手)はどう感じましたか。

■ SA ■

Q17. 地デジデータ放送とPCとの操作性比較_全体 (n=100)



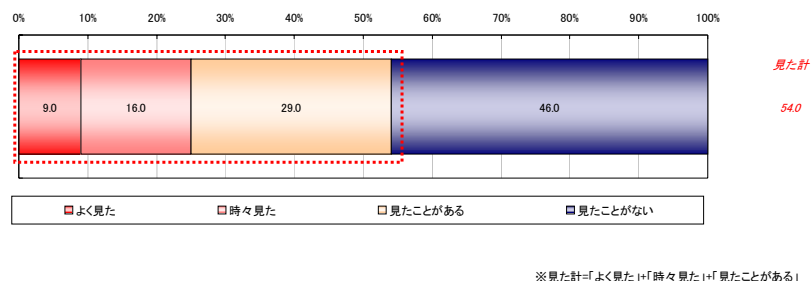
地デジ防災情報のCM認知度

- 沢口靖子が出演する地デジ防災情報データ放送のCMを見たことがあるかと聞いたところ、見た(見た計)という人は54%を占め、高い認知率を示している。

Q18. あなたは沢口靖子の出ている地デジ防災情報データ放送のCMを見たことがありますか。

■ SA ■

Q18. 地デジ防災情報のCM認知度_全体 (n=100)



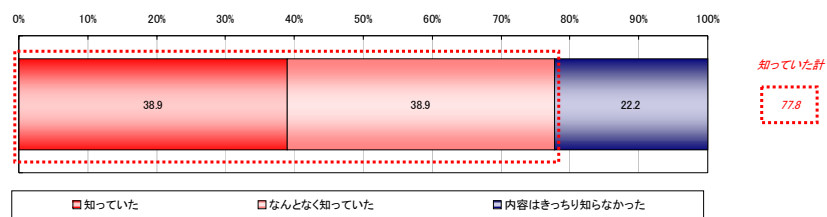
地デジ防災情報のCM内容認知度

- 地デジ防災情報データ放送のCMを見たことがある（見た計）人に、その内容が「地デジデータ放送の実験放送で、架空で河川のはん濫情報を流します。」という内容を告知していたことを知っていたかを聞いたところ、知っていた（知っていた計）と回答した人は78%。内容理解率は非常に高い。

Q19. そのCMは「地デジデータ放送の実験放送で、架空で河川のはん濫情報を流します。」という内容を告知していましたが、そういう内容のCMだったことは知っていましたか。 ■ SA ■

Q18「見たことがない」以外回答者ベース

Q19. 地デジ防災情報のCM内容認知度_全体 (n=54)



※知っていた計=「知っていた」+「なんとなく知っていた」

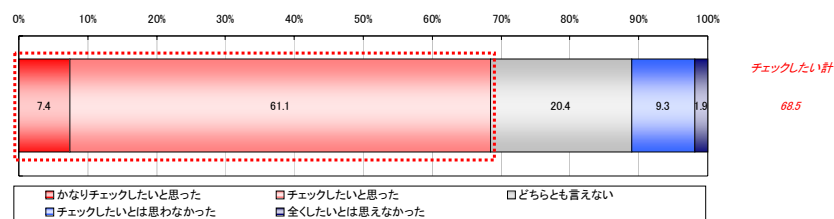
地デジ防災情報のCM視聴によるチェック意向

- 地デジ防災情報データ放送のCMを見たことがある（見た計）人に、CMを見たことで防災情報データ放送をチェックしてみたいと思ったかを聞いたところ、チェックしたい（チェックしたい計）と回答した人は69%と7割近くを示しており、チェック意向は非常に高い。CMの目的は十分に達成できているといえる。

Q20. あなたは沢口靖子の出ている地デジ防災情報データ放送のCMを見たことで、防災情報データ放送をチェックしてみたいと思いましたか。 ■ SA ■

Q18「見たことがない」以外回答者ベース

Q20. 地デジ防災情報のCM視聴によるチェック意向_全体 (n=54)



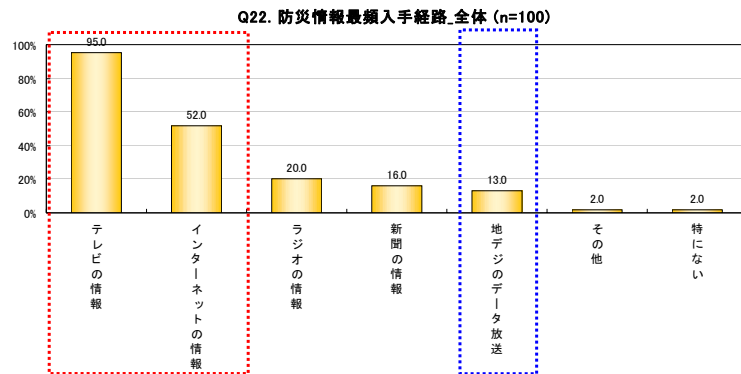
※チェックしたい計=「かなりチェックしたいと思った」+「チェックしたいと思った」

防災情報最頻入手経路

- 普段、防災情報を何から得ることが多いかを聞いたところ、「テレビの情報」が95%と圧倒的に多い。次いで「インターネットの情報」が52%と多い。「地デジのデータ放送」に関しては、13%と低く、まだまだ防災情報の入手ツールとしては活用されていないようだ。

Q22. あなたは普段、台風や洪水などの防災情報を、何から得ることが多いですか。あなたがよく参考にする情報源すべてをお答えください。

■ MA ■

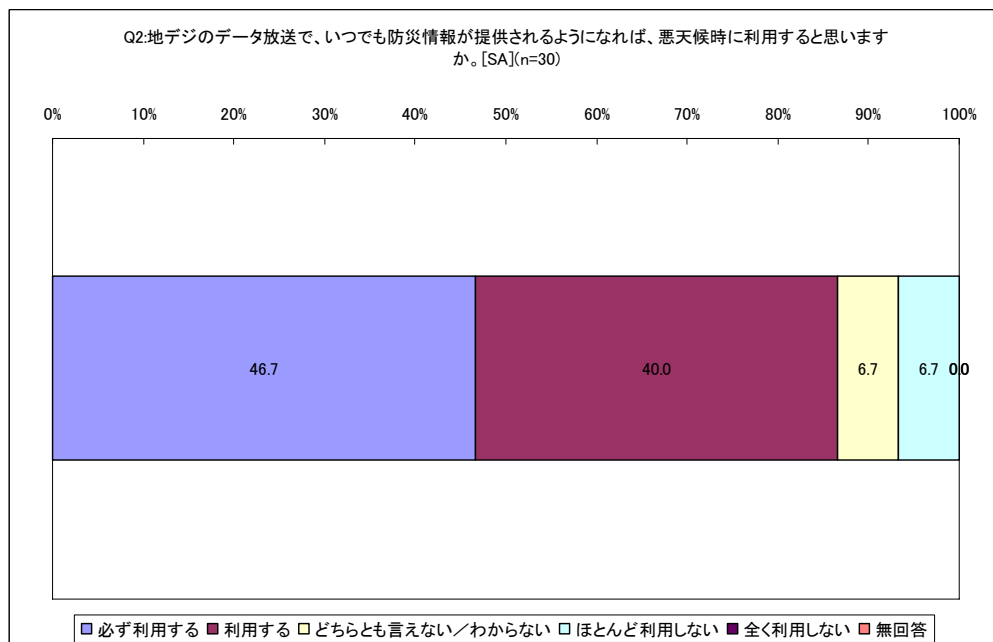
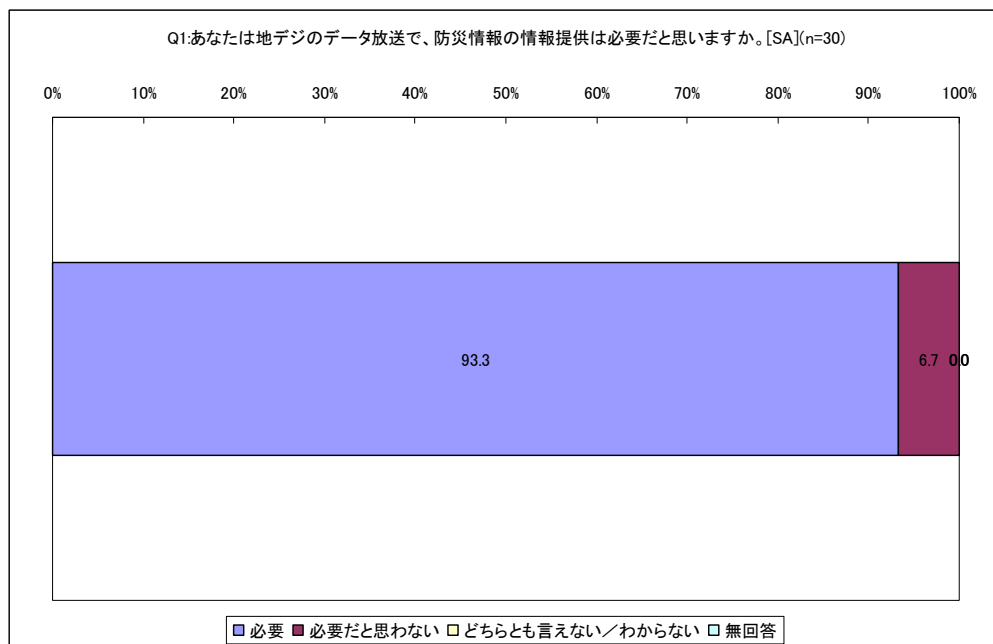


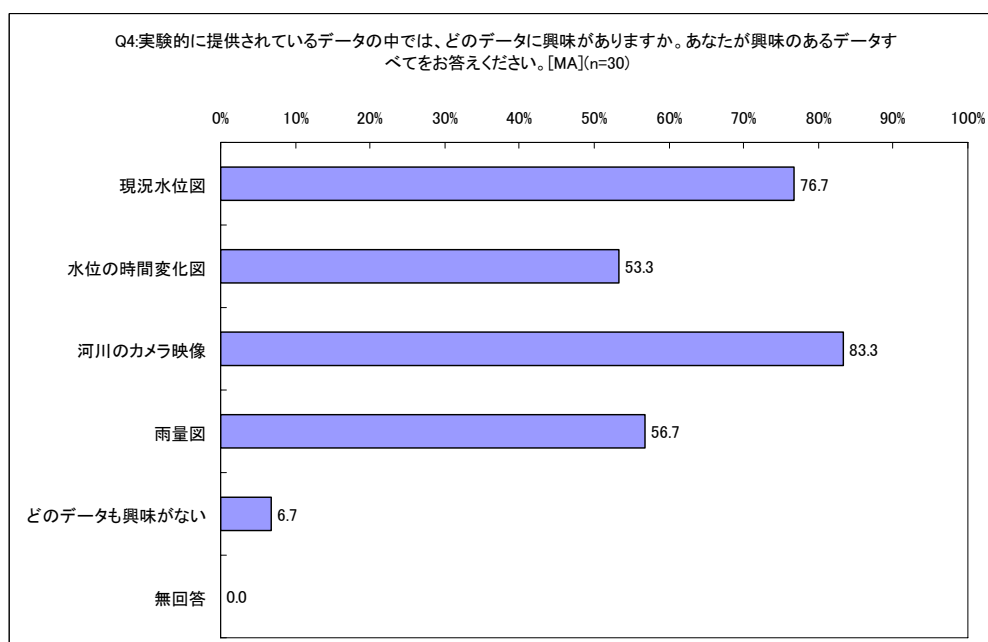
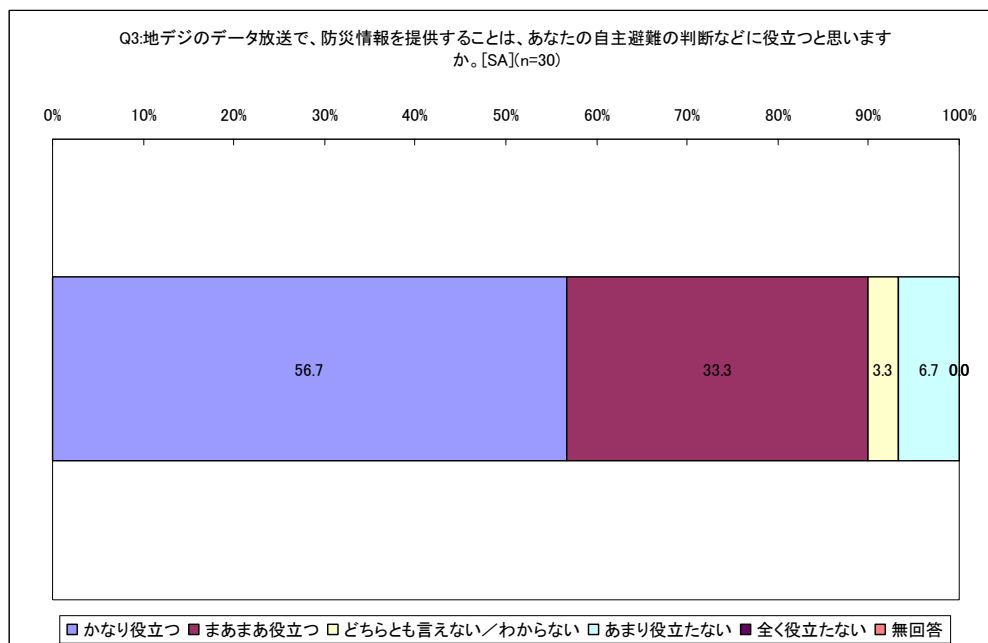
※降順ソート

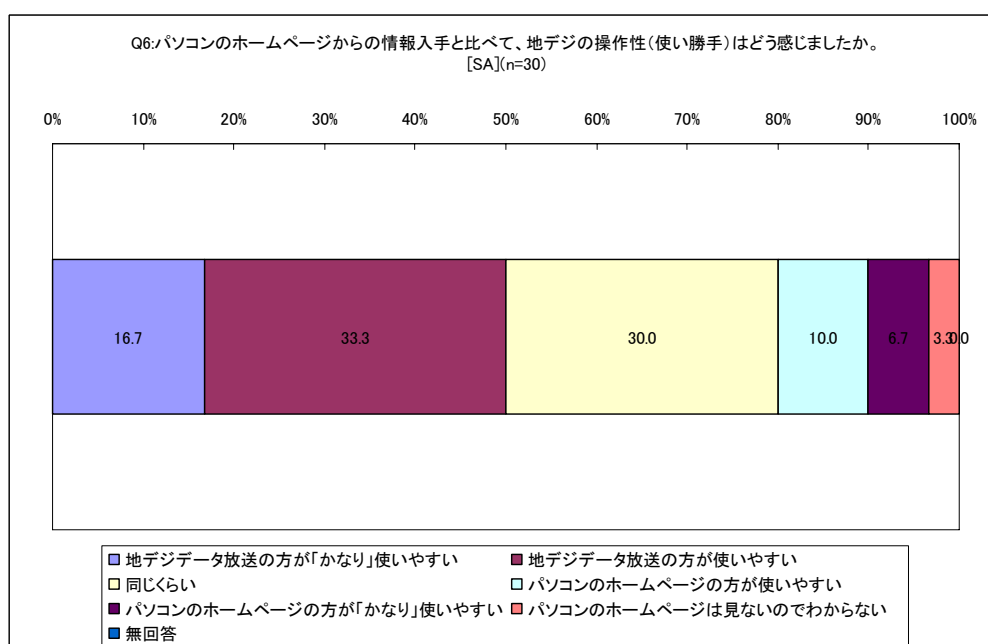
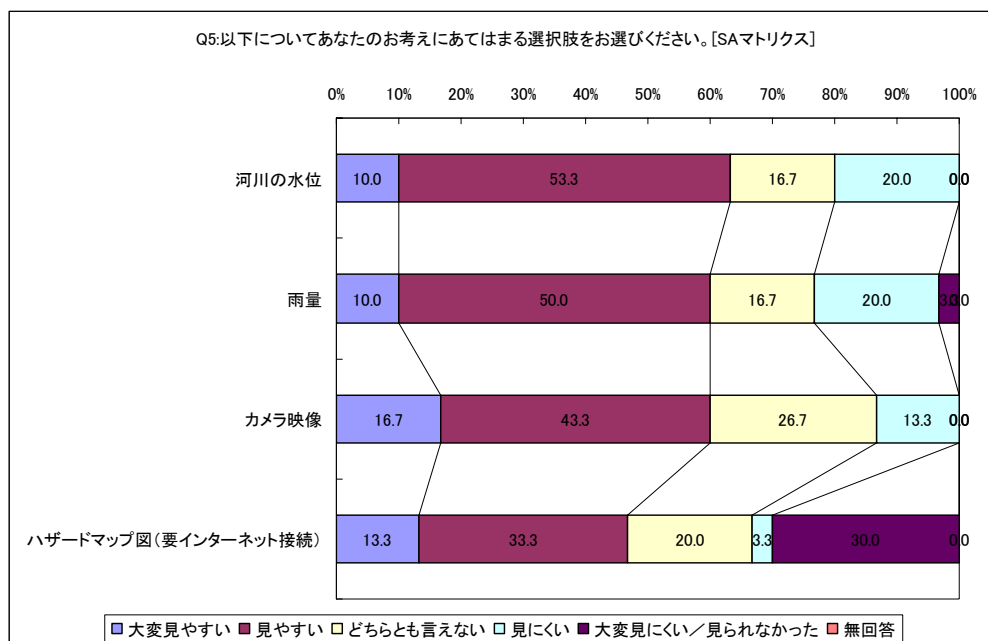
記述式の回答については付録として添付する。

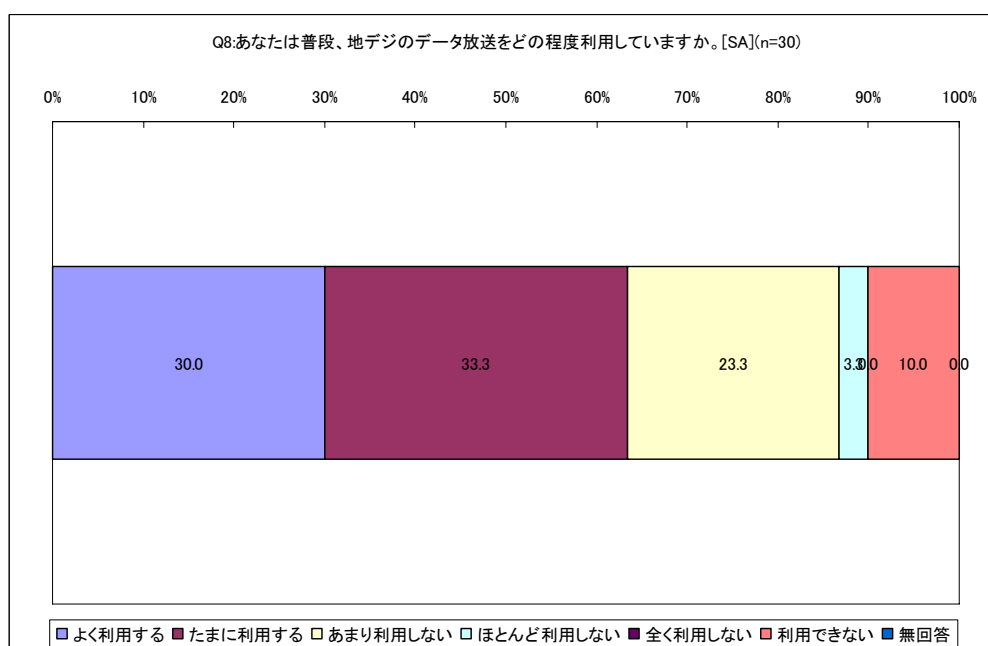
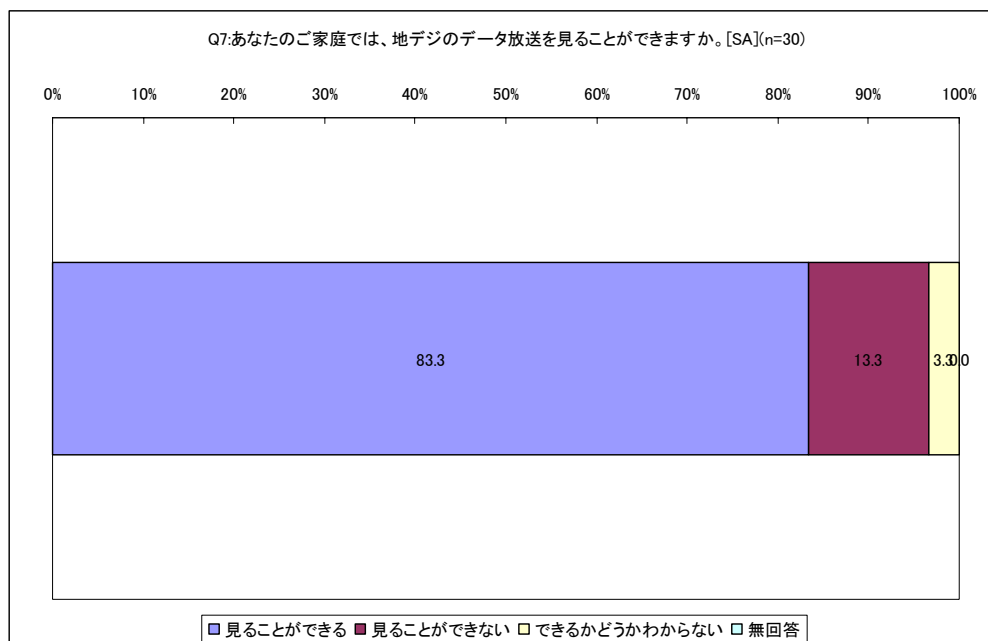
4-5-3. 読売テレビホームページでのアンケート収集結果

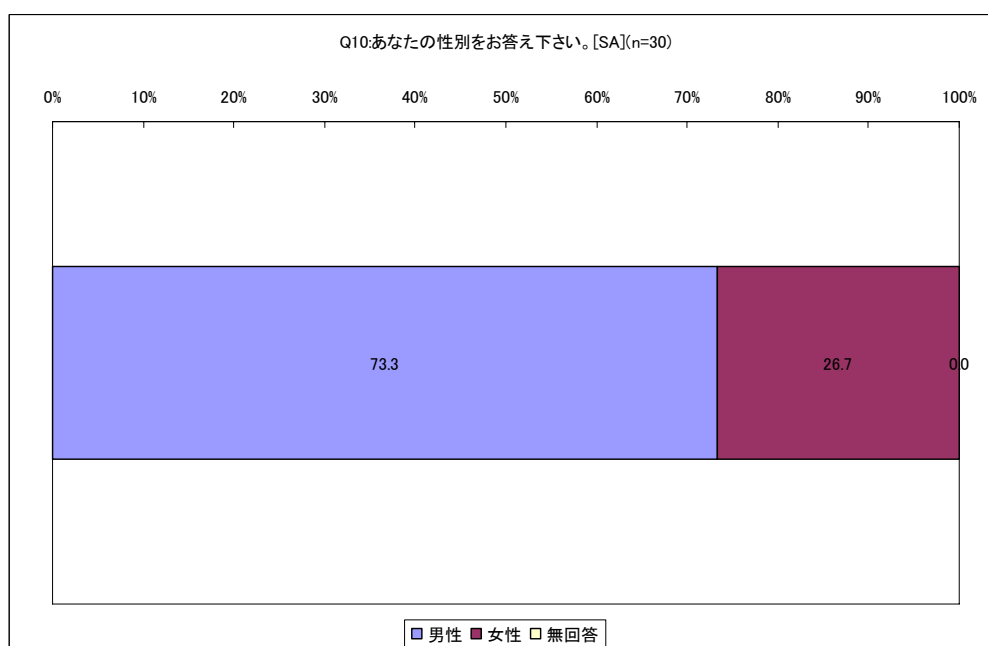
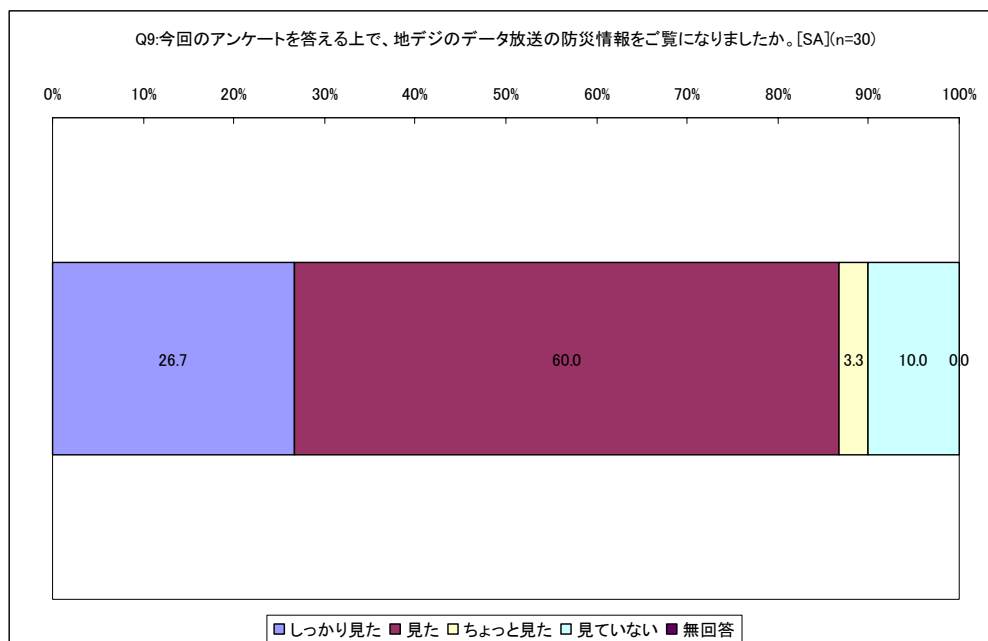
YTV ホームページ上で本実証実験のアンケートを募集した。募集期間は 3 月 1 日から 3 月 25 日で、その集計結果は以下のようなものである。付録としてアンケート項目を添付する。その結果は、以下のようなものである。

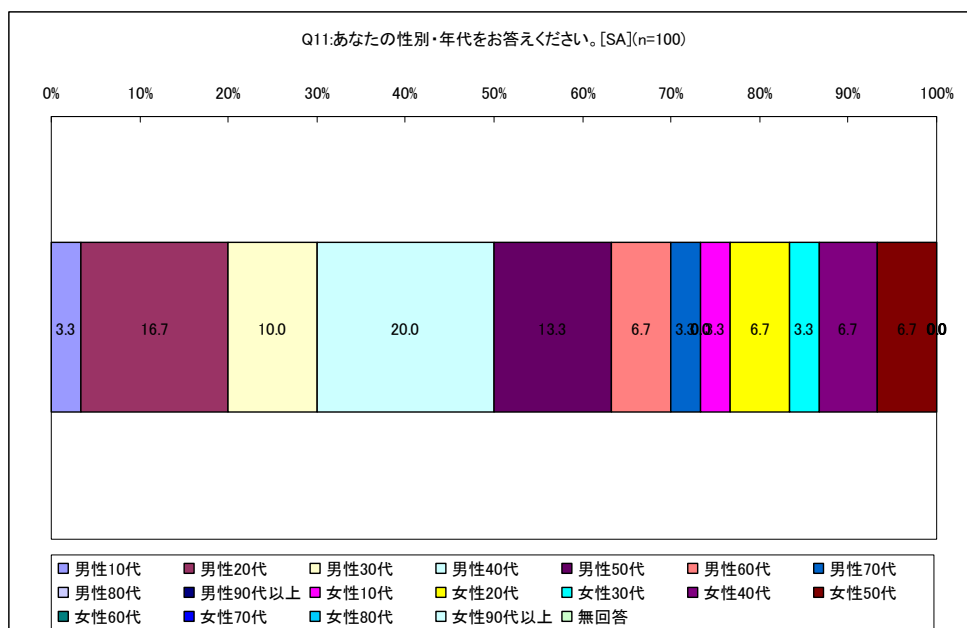












5. 河川情報提供データ放送の課題

将来、常時、河川情報を送出するため、データ放送側から見た本実験を経験しての課題を述べる。

- ① データ更新頻度、データ量とも、現在、12セグのデータ放送で想定されている範囲を超えたものとなっている。

YTVのデータ放送は実証実験前の通常時で約800kBであった。これにはニュース、天気、占いなどのコンテンツの合計値である。本実証実験は大和川の水位6地点及び雨量5地点のみであったが、そのコンテンツサイズは約350kBである。YTVの12セグのデータ放送は1.5Mbps+VBR（バリエابلビットレート：映像圧縮が簡単なシーンでは映像帯域からデータ放送帯域にビットレートを適応的に振り替える。これにより最大2Mbps程度まで帯域が広がる時間帯が出来る）の帯域を持っており、通常20秒程度でコンテンツ取得していたものが、約30秒で取得となった。取得中はデータ画面が表示されず、あまり長い時間であると視聴者が操作性に著しい不満を抱えることとなる。

現在の時間から考えて、河川ひとつであればコンテンツサイズとしてはぎりぎり許容範囲と思えるが、複数河川や観測所の増加に対応が困難である。

また、最初のデータ取得時だけでなく、データ更新時にも更新分のデータが

取得できるまで、データ放送操作が出来なくなる。これは、最初の取得時と違って、視聴者はそのタイミングを知ることが出来ないため、急に操作できなくなるような感じを受け、その時間や回数が多いと操作性への著しい不満として現れる。本実験のような河川情報の場合、ニュースや天気に対して更新頻度と毎回更新されるデータが多いという特徴がある。

ニュースや天気は随時データが変更されるものであるが、データ更新の頻度は、天気の数時間に一度、ニュースも1日のニュース本数を考えればそんなに多い頻度ではない。また、ニュースや天気は、文字や数値データのみ更新できるように設計されているためデータ量が少なく、更新時間も視聴者が気づかないくらい短い。

これに対して本実験では、河川画像が必ず3分に1回更新され、水位図等も10分に一度は更新される。そのため、受信機でのデータ受信負荷が大きくなり、操作性に影響を与えている。現状以上のデータ更新があれば、操作面での“重さ”から視聴者離れを引き起こす可能性がある。

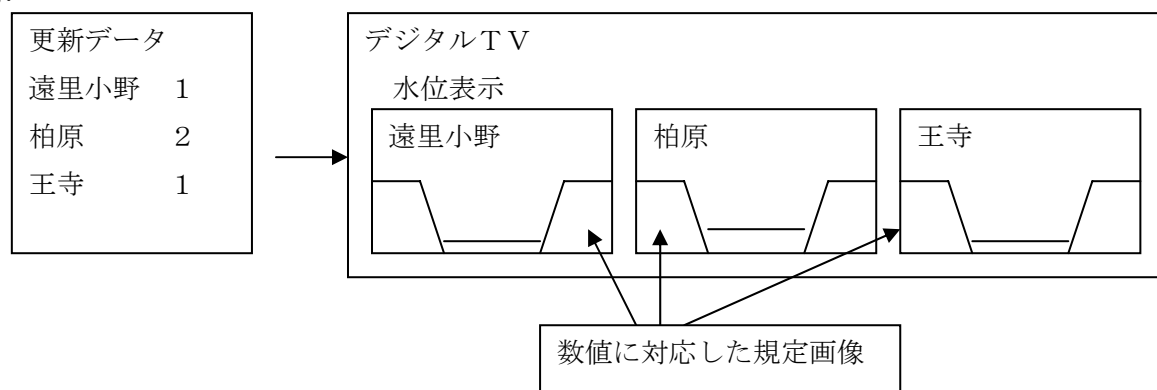
(対策案1)

河川画像などを通信コンテンツかすることがあげられるが、これはデジタルテレビの通信環境の現状から考えると利用可能者の著しい減少を招き、将来の課題と思われる。

(対策案2)

水位図などの断面図を観測所ごとにを変えて表示することもデータ量の著しい増加を招いており、これは天気方式のような仕組みの開発が期待される。天気方式とは、天気予報は郵便番号単位で予報を出しているがデータ量的に大きな問題になっていない。それは予報マーク約30種類と郵便番号別のマーク番号の指定という方式を取っており、更新されるデータは郵便番号別に記載されたマーク番号だけであるというデータ量削減法がとられているからである。これを水位図に割り当てると、水位の状態を5段階程度の図で表現するとして、5種類くらいの画像と、各水位観測所の水位がその5種類のどの状態かを表現する方法である。

例.



水位観測所ごとの画像にこだわる必要があれば、この情報も将来のデジタルテレビの通信環境の普及を期待して通信コンテンツにする必要がある。

(対策案 3)

複数の放送局で河川の担当局を決めて、かつ、平時のデータ更新を1時間に一度程度にして、災害予想時と平時の更新頻度を変える手法を取ることである。ただし、この場合、平時と災害時を切り替える処理が必要なことと、台風等により河川の増水の場合、台風によるその他の災害情報の提供も放送局の責務のため、災害時のデータ更新頻度の更なる検証が必要となってくる。

例.

A放送局：大阪府の河川担当

B放送局：兵庫県の河川担当

・

・

(対策案 4)

河川1本につき、提示する水位観測所を制限することである。たとえば大和川でいうと、「柏原」、「板東」などの「避難判断水位」が規定されている観測所にすることで、データ量の削減と視聴者の視聴ポイントを誘導することが出来る。

大和川：「柏原」「板東」・・・

淀川：「枚方」・・・

紀ノ川：「船戸」・・・

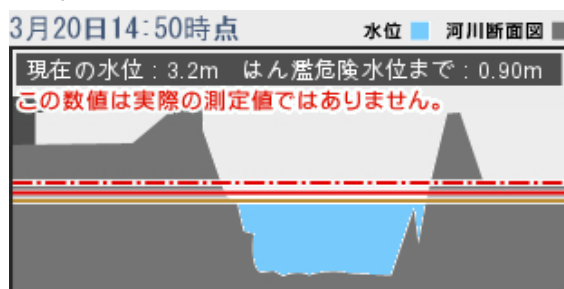
円山川：「立野」・・・

・

・

ただし、この場合でも、平時と災害予想時の更新頻度を変えるなどの工夫は必要と思われる。

- ② 観測所の水位図、河川画像の「はん濫危険水位」が緊迫感のない画像になっている。

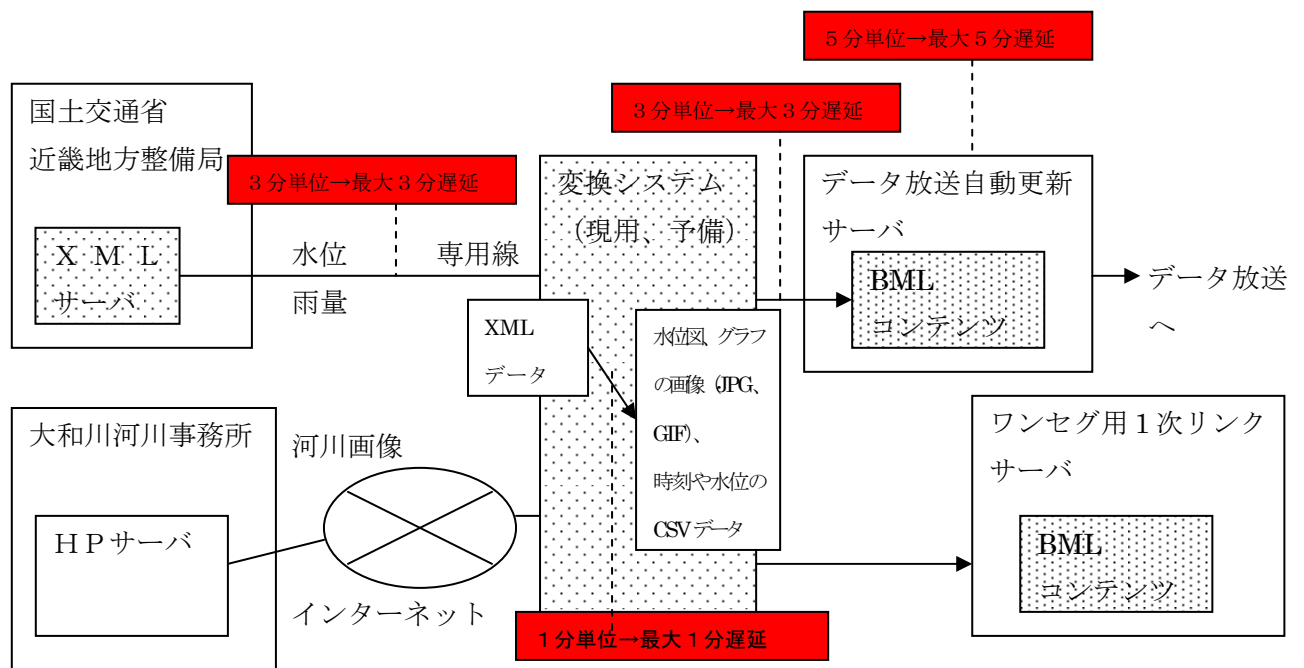


上図の一点破線がはん濫危険水位であるが、堤防の高さに比較して余裕があるように見える。これは、この地点での状態であり、これより川下のどこかで、一点破線の水位の状態になったとき堤防ぎりぎりになるのであるが、そこまでの理由を視聴者に伝えるのが難しい。この図はデフォルメすることで危険度を増すように感じさせることも出来るが（このこともあり、共通画像の導入が望まれる）、河川画像は堤防まで水位に余裕があれば、視聴者に余裕を感じて、避難遅れを生じさせる恐れがある。（下図参照：横断図とはん濫危険水位からのイメージ）



③ 実際のデータ遅延の問題

洪水時を想定した仮想データでの実験では、あらかじめ用意したデータを定時に投入する手法で実験を行ったが、実際には観測からデータ放送での表示までには遅延が生じる。本システム図で解説するとXMLデータから水位図を作り、それが表示されるまでに以下のような遅延が生じる可能性がある。



YTV内システムだけで最大12分遅れる可能性がある。また、観測所からXMLサーバに対しても10分以上の遅れが生じている。ただしこれは最悪時であり、実証実験期間中の観測では8分から15分（大阪府管轄の布忍橋はさらに10分程度の遅延）の遅延で表示している。

これらの遅延が実際の避難行動にどのように影響するかを検証する必要がある。

④ ワンセグデータ放送の通信料

ワンセグデータ放送は系列によって異なるが、データ放送の帯域は80kbps～100kbpsである。YTVでは番組連動データ放送がある場合、大和川河川情報、ニュース、天気などのコンテンツは合計で40kbpsに制限される。そのため、本実証実験コンテンツのほとんどを通信コンテンツとする必要があり、データ更新の頻度による操作性の低下の問題からは開放されている。しかし、最も普及しているワンセグ受信機である携帯電話一体型ワンセグ受信の場合、通信コンテンツ取得のためには通信費がかかる場合がある（パケット料定額制の契約をしていない場合）。現在、YTVでも天気などのコンテンツを通信コンテンツとしているが、それらのコンテンツは一度見るとあまり更新されないコンテンツである。本実証実験は画像データが多いコンテンツであり、データ量の削減をしたが1画面表示のために約15円程度の通信費がかかる可能性がある（最もパケット代が高い契約の場合）。災害時に頻繁にデータを閲覧した場合、かなりの通信費が必要になることが考えられる。

⑤避難勧告・指示の統一システム化

仮想データによる実験中の視聴者の意見を聞くと、自主避難を検証した実験ではあるが、避難勧告や避難指示を早く確実に伝えてもらいたいと言うものが多かった。避難勧告や避難指示は地方自治体が発令することになっており、自治体ごとに違ったシステムで発令される。本実証実験では水位などのデータは河川統一情報システムという河川の情報の全国統一規格を利用したため、他地域でも用意に利用できるという非常に汎用性の高いシステムとなっている。しかし、避難勧告や避難指示は自治体ごとであり、全国の統一システムが規定されていない。これはデータ放送側から見れば個別対応する必要がある、非常に負荷が高いものとなっている。また、対応できたとしても遅延が大きなものと想像される。

本実証実験では XML で規定されたデータの規格を用いたが、その記述は平易で利用しやすい規格であった。このような形式で避難勧告や避難指示が統一規格化されることが望ましい。

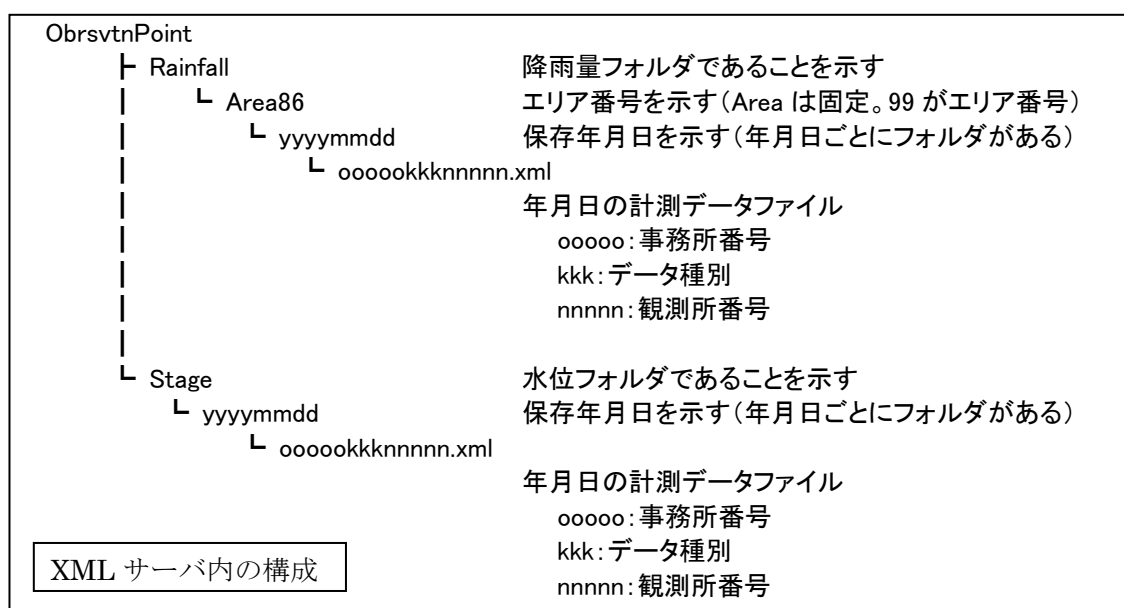
また、避難勧告・指示と洪水予報とのシステム統合は、洪水予報の内容から見ても望ましいと思われる。

The screenshot displays a web-based interface for disaster information. At the top, a header reads 'Z河川 避難勧告・予報 3月20日15:30'. Below this, a section titled '15時10分 ○○市発令 <避難勧告>' provides details about an evacuation order for the 'Z河川下流左岸地区'. It includes a red warning: '実際の避難勧告・指示ではありません。' and a definition of '避難勧告' as a recommendation for evacuation when there is a high possibility of damage from floodwaters. Below this, a status bar indicates 'Z川下流 はん濫危険水位に到達 はん濫の恐れあり / 3月20日15時30分'. The main content area features a flood forecast: '【Z川下流洪水予報 はん濫危険情報 洪水警報】 Z川下流のC水位観測所(○○市××)では、はん濫危険水位(レベル4)に到達しました。はん濫するおそれがありますので、各自安全確保を図るとともに、市町村からの避難情報に留意して下さい。' A red circle highlights the phrase '市町村からの避難情報'. A red note at the bottom states '実際の洪水予報ではありません。'. Navigation buttons '次へ' and '戻る' are at the bottom right. A callout box on the right with arrows pointing to the evacuation order and flood forecast sections contains the text: '時系列的なリンクが望ましい'.

⑥XML サーバ内データ更新システムに関する件

XML データ自身は仕様も使いやすかったが、サーバ内のフォルダ構成が日付ごと（下図参照）になっており、日付変更時（0時になった段階）には新しい日付のフォルダが用意されていない。国交省内の XML サーバでは、日付変更後、データがはじめて生成する段階で当日のフォルダが生成される仕様になっている。その生成時刻は日付変更後、約20分後である。本件で開発した XML サーバデータ取得システムは、3分毎に XML サーバにアクセスしており、日付変更後は、新規日付のフォルダにアクセスする。そのため XML サーバに新規日付フォルダが出来る

まではアクセスエラーとなる。フォルダが無いことが障害のためか日付変更作業中のためかの判断がつかないので、その時点でエラーを発行せざるを得ず、おそらく将来、放送局が利用する場合、YTV と同じ論理でエラーチェックをすると思われるが、必ず日付変更時にエラーが出ることになるため、重大な問題ではないが放送利用ということを考えれば対処の可能性を考慮されたい。



また、この件も含めて、XML データ取得システム開発時に感じた問題点を以下に列挙する。

- ・XMLスキーマ定義書、インターフェース仕様書のどちらを参照すればよいか分かりずらかった。
- ・欠測の「contentscode=190」というのが記載されておらず、実際のデータ配信中にコードが出現して、欠測コードの存在がわかった。
- ・XMLの構造はわかりやすいが、仕様書に書かれていない内容も多く、サンプルファイルがないと開発できないと思われる。たとえば、情報の更新間隔は仕様書からでは分からなかった。
- ・午前0時0分のタイミングではXMLファイルが作成されておらず、このタイミングで、データを取得するとエラーになる。この点、仕様書に書いてあると、開発段階での対処も考えられるかもしれない。（上述の問題点）

- ・観測所Noや危険氾濫水位などの資料がまとまっているとより開発しやすかった。または、これらの情報をまとめたマスタXMLがあった方が良いと思われる。

- ・システム開発の面からは、用いる水位などの桁数が統一されている方が良い。例えば、提供された各地点の氾濫危険水位は小数点4桁で、配信を受けたXMLのデータは小数点2桁であったりした。

- ・開発を円滑にするためには、テストデータを配信するテスト環境がある方が効率的である。

⑦安定した XML データ提供サーバ

本実験において、XML サーバが欠測データを提供することが多かった。実験時期が渇水期であったため、メンテナンス時期と合致したことが考えられるが、定常的に本放送で提供をするとなれば、予備系を用意するか、メンテナンス中を示すデータの規定が必要と思われる。

⑧ワンセグ受信機の多様性

ワンセグ受信機は携帯電話一体型で通常考えられることが多いが、実際普及で見るとその通りであるが、PC 用、ワンセグ受信機専用端末、カーナビ一体型、携帯ゲーム機も受信機として発売されている。それら受信機は放送を受信できる環境であっても通信が行えるとは限らない（携帯電話の場合は放送エリアであればほとんどの場合、通信可能エリアである）。本実験ではコンテンツ容量の関係から、地点とその地点がはん濫注意水位を超えたかどうかを放送で行い、各地点の水位他の情報は通信コンテンツとして提供している。

通信が不可能な受信機において、放送部分しか視聴できない。本実験では、データ容量の関係から、放送では、はん濫注意水位を超えたことを把握できるが、実用化した場合は、水位他の情報もテキストのみにしてデータ容量を削減して、すべてを放送で提供することも検討しなければならないと思われる。テキストのみで情報を伝達した場合、わかりやすさという問題があるが、④で課題とした通信費の問題は解決する。本実験では、12 セグとワンセグでほぼ同じコンテンツを展開したが、実運用では使用環境（自宅か外出先かなど）やメディアとしての特性（大画面か携帯性かなど）を考慮して、コンテンツの検討を行うべきかも知れない。

6. 今後の河川情報提供データ放送を行うための要求条件

本件は実証実験として、大和川下流域を対象にして放送を行った。実証と言う観点から、地域限定情報の放送を行った。放送局としては、多くの観測所からのデータ出力があるなど技術的に可能であるのならば、特定地域の特化するのではなく、放送エリア全体の利益を考えなければならない。また、特定河川だけのはん濫情報を放送していた場合、その他の河川のはん濫情報を放送していないことで、その他の河川は安全との思いを視聴者に誘導してしまうかもしれない。そのため、実運用では特定河川のみのデータ放送は困難である。

5章の①で、データ量からいくつかの対策案を示したが、それらは放送局で検討することが望ましく、理想の形式は、近畿エリアで考えると、近畿エリアの河川情報をマスコミ向け（一般向けにも公開されれば緊急時に輻輳で使えない可能性あり）に公開するサーバが用意され、そのサーバには各自治体が発令する避難警報等の情報が含まれていることが必要と思われる。また、本実験で使用したXMLデータに加え、現況の河川画像や洪水予報文もフォーマットを規定して、同一サーバで公開されることが望ましい。

また、そのデータは画一的でもよいが、利用法は、統一画面で画一的な利用を要求するのではなく、放送局に任せる形式が望ましい。おそらく河川災害の危険時を想定すると、台風等でのライフライン情報等の他のデータ放送も行っていることが予想される。放送局に任せる形式であれば、自社の既存のデータ放送のコンテンツサイズを計算し、緊急時に最低限必要なデータ放送をする局もあるであろうし、また、視聴者の使い勝手が悪くなるであろうサイズまで余裕がある局は、通常時も河川情報をサービスすることも考えられる。